

軍隊抑留中は現職扱いとなっていたため、給料、昇給も同じように行われたので、生活面では支障はなかったが、抑留中の精神的打撃は大きく、実際に経験した以上の重圧にあえいでいる夢をよく見た。

抑留記

岐阜県 小澤 徳 祐

生年月日 大正六（一九一七）年一月二十五日

本 籍 岐阜県恵那市大井町

軍 歴

昭和十三（一九三八）年三月二十五日

満州国牡丹江海浪 航空教育隊第一期生に入

隊

〃 十四年十月

関東憲兵教習所に転属

〃 十五年三月二十五日 右教習所修了

〃 十五年四月一日

関東憲兵隊司令部八六部隊第四班に配属

〃 十五年六月一日 憲兵伍長に任官

〃 十七年四月一日 憲兵軍曹に昇進

〃 十九年八月一日 憲兵曹長に昇進

〃 二十年八月十日

奉天（瀋陽）に集結のため列車輸送中に終戦

〃 二十年八月十五日

終戦のため奉天農業大学に集結、武装解除と

同時にソ連指揮下に入る

抑留歴

昭和二十年九月十日

黒河経由入ソ、ハバロフスクに集結

〃 二十年九月十二日

貨車輸送にて約四十五日間を経てタシケント

アングレン（囚人の街）に到着

直ちに半地下幕舎生活が始まる

昭和二十年十月十日

六人一組三交代制、二十人の班にて採炭訓練

が始まる

訓練終了後、地下約八百メートルの黒ダイヤ、石炭の採掘作業が始まる

以降、四年七月、一度も暮舎の移動なし

昭和二十五年二月十日

復員のためナホトカ港に集結

〃 二十五日

高砂丸にて舞鶴港に上陸

〃 二十八日

恵那市大井町に帰宅

職 歴

昭和二十六年十二月一日

恵那市大井町佐渡 中央板紙株式会社に就職

昭和四十六年三月三十一日 定年退職

昭和四十六年四月一日

恵那高原開発株式会社に就職

昭和五十六年三月三十日 定年退職

抑留中、軍歴の発覚することもなく、移動もなく、病気にもならず、無事帰国できたことを感謝

している。しかし、私たちの労苦が何も生かされていない現状を腹立たしいと思っている。失われてしまった国家に対する忠誠心を少しでも取り戻してほしいと、今はそれだけを願っている。

抑 留 記

岐阜県 松岡道正

生年月日 大正十二（一九二三）年七月十日

本 籍 岐阜県恵那市長島町永田

軍 歴

昭和十九（一九四四）年一月十日、現役兵で渡満のため広島に集結し編成され、電信一八連隊に入隊する。二、三日で博多港より釜山港へ夜間渡る。貨物船の大きいもので各兵科渡満する。現役兵全部、兵器、馬等積めるだけ乗船する。また朝鮮半島は素通りで満州国の北満、龍江省上爾池哈にある電信一八連隊勇隊二班に通信兵として入隊